

● 発達障害のある方が職業生活で困っていることの例

(情報処理過程におけるアセスメントの視点(Ver.10) 補足資料1)

1 出勤の際に

- 朝の準備、段取りが苦手。
- 就寝・起床が遅くなり、遅刻。
- 出社に不安。
- その他 ()

2 仕事開始

● ルール・マナー

- 職場のルールが守れない。
- 職場のマナーが守れない。

● 作業の場面

【指示】

- 指示の理解が苦手
(説明だけでは混乱、些細なことに気を取られて指示を理解しそこなう、定型的な指示方法や作業マニュアルでは指示理解が難しい等)。
- 指示されていないことの推測が苦手。

【作業予定(P L A N)作業実施(D O)】

- 手順が理解できない。
- 手順通りに作業を進めることが苦手。
- 時間を守り作業を進めることが苦手。
- マニュアルやメモを活用する等して、習得した作業を行うことが難しい。
- 些細なことに気を取られて仕事が進まない。
- 作業を長く続けることが難しい。
- チーム作業又は一人での作業ができない。
- 複数作業、指示されていない作業、多くの作業などを行うことが難しい。
- 集中することが難しい。作業が止まったり、自分がやりたいことをやったりしてしまう。苦手な作業がある。
- 文書入力・記述・作成・照合がうまくできない。

【結果確認(S E E)】

- 作業結果の見直しを行うことが難しい。

【報告・相談】

- 上司に相談するタイミングをつかめない。
- 質問がうまくできない。
- 報告・連絡・相談ができない。

【変化の対応】

- 仕事の変更・中止・延期に混乱。

● 会話・対人の場面

- 名前を忘れてしまう。
- 人の顔を見分けるのが苦手。
- 挨拶・意思表示ができない。
- 場面に応じて適切なコミュニケーションを取ることができない。
- 会話のルールが守れない。
- 会話において、適切な発信ができない。
- 会話において、相手の意図や感情を適切に受け取ることが難しい。
- 会話において、情報交換ができない。

● 休憩時間の過ごし方

- 空いている時間の過ごし方がわからない。
- 職場の人との雑談が苦手。
- 人が多いとリフレッシュできない。

● 職場の音・におい・光

- 感覚過敏・鈍麻で仕事に影響がある。

● その他 ()

3 仕事の切り上げ方

- 仕事が終わるまで続けてしまう。
- 仕事の切れ目・区切りに関係なく帰ってしまう。
- その他 ()

4 職業生活の維持

- 生活面の課題
- 自己評価の低さや不安がある。
- ストレスコントロールができない。
- 自己理解や働くことの意味の理解ができていない。
- 就業態度が適切でない。
- 他者の指摘に適切に対応できない。
- その他 ()

<参考・引用文献>

- ①『発達障害者就労支援レファレンスブック』
 - ②『発達障害について理解するために』
(いずれも障害者職業総合センターで作成)
- ※②は巻末の「アセスメントで活用できる過去の成果物」に掲載